

令和6年度 教育行政の点検評価 (令和5年度事業実績)



ぽると de 書写（佐賀小学校）

令和6年11月
平生町教育委員会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

主な取組の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

【施策】

知・徳・体の調和のとれた子どもの生きる力の育成・・・・・・・・ 8

子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり・・・・・・・・ 10

人権教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

地域で支える子育て環境づくりの推進・・・・・・・・・・・・ 12

生涯学習と文化活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興・・・・・・・・・・・・ 14

読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実・・・・・・・・ 16

【はじめに】

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たして行くという趣旨に則り行うものです。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の期間及び対象

点検・評価は、令和5年4月から令和6年3月の間で、「第五次平生町総合計画」「平生町教育振興基本計画」に基づき実施された事業で構成される施策を対象としています。

3 点検・評価の方法

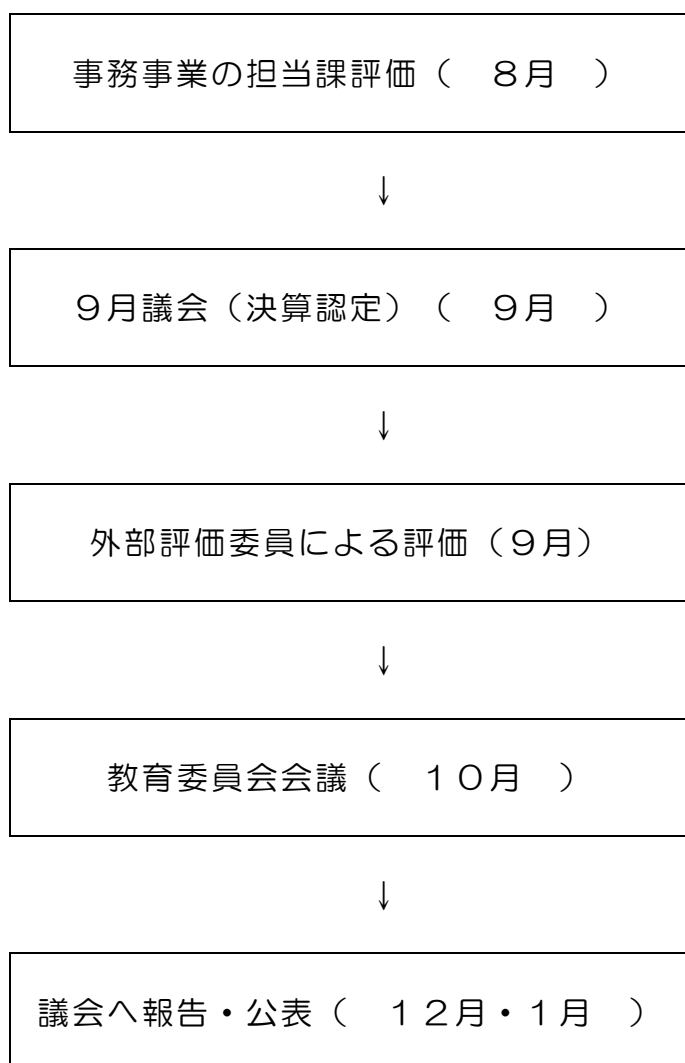
教育委員会による自己評価と併せ、教育行政評価委員による外部評価を実施しました。

法第26条第2項の規定による教育に関し、学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
委員長	中 田 政 明	学識経験者
委 員	福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長
委 員	廣 池 康 子	学識経験者

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の所管する事務の点検・評価については、教育委員会独自の自己評価（内部評価）に併せ、外部評価委員（教育行政評価委員）による対象事務事業の成果等の点検・評価を行いました。

学校教育課の目標を“自分に対する信頼を高め、「がんばり」と「優しさ」を発揮する子どもの育成”と定め、「GIGA スクール構想」に基づき整備してきた一人一台端末により「主体的・対話的で深い学び」の実現に努めました。教職員の働き方改革では、教員業務支援員を各小中学校に配置することにより、教員の業務負担の軽減を図るとともに、学校教育活動の充実を図りました。中学校においては、部活動指導員を配置することにより、専門的な指導による技術向上と、教職員の心理的負担の軽減に努めました。学校安全の推進では、計画的な改修により、児童生徒の安全・安心を確保するとともに、新たに学校施設管理人を1人配置することにより、各校の環境整備やきめ細かな施設の予防保全に努めました。学校給食では、学校給食用の食材費値上がり分を町が負担し、給食費を据え置くとともに、学校給食用の食材費を9月から町が負担（給食費を無償化）することで、保護者の経済的負担を軽減しました。また、平生小学校・平生中学校の給食施設の老朽化により、早期に「安全で安心な給食を安定的に提供できる体制を構築する」ことが必要なため、令和7年9月から学校給食事務を田布施町に委託することで合意しました。

社会教育課の目標を“主体的な参加と連携・協働により、「充実した人生づくり」と「きずなづくり」を進め「地域づくり」へとつなげる”と定め、「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援の取り組みをはじめ、学校を拠点とした教育支援活動の充実、青少年健全育成活動や子ども会活動の充実を図りました。「中高生ボランティア活動」は、内容により対象者を小学校高学年まで拡充し実施しました。生涯学習の推進としては、町民憲章の具現化に向けた取組、花いっぱい運動、まちづくり出前講座の実施、人権学習講座の開催、実行委員会形式で取り組む秋の文化行事等への支援、生涯スポーツの推進などに努めるとともに休日の部活動の地域移行に向けて取り組みました。また、花いっぱいカレンダー作成、文化財マップ作成、文化財や史跡の保護を進めるとともに周辺の環境整備、老朽化した体育施設の改修に努めるなど、ソフト・ハード両面において事務事業を推進しました。

今回、学校教育及び社会教育の8施策について、まずそれぞれの施策を構成する関係主要事業のコストや指標の分析・検証を行い、総合的に施策の進捗状況や課題、今後の方向性から内部評価を行いました。

各施策は目標どおり、あるいはほぼ目標どおりに進捗しているという評価をし、この内部評価をベースに教育行政評価委員による評価を受け、おおむね各分野で効果的に事業展開ができていているという評価をいただきました。

今回いただいたご提言やご指摘を生かし、「平生町教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）に基づく施策や事業を実践し、効果的な教育行政の推進に努めます。

主な取組の成果

豊かな心と健やかな身体の育成

物価高騰により、学校給食用の食材費が値上がりしているが、この値上がり分を町が負担することで、給食費を据え置くとともに、町内学校において提供される学校給食用の食材費を 9 月から町が負担することで、保護者の経済的負担を軽減させ、栄養バランスや量を保った給食の提供を継続した。

グローバルに活躍する力の育成

児童生徒が優れた舞台芸術を鑑賞し、本物の舞台芸術に身近に触れる機会を作ることで、児童生徒の芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、郷土に誇りと愛着をもった豊かな感性を有する児童生徒の育成を目指すことを目的として、平生中学校において、県事業である「山口県学校芸術文化ふれあい事業」を活用し、山口県合唱団を招き、音楽鑑賞会を実施した。

個を大切にした教育を目指す取組みの充実

「GIGA スクール構想」に基づき整備してきた一人一台端末を活用し、教育用アプリやデジタル教科書等ソフトの導入など、様々な学習コンテンツを活用することにより「主体的・対話的で深い学び」の実現に努めた。

また、補助教員や学校支援員の配置によるきめ細かな指導を実施した。

学校における働き方改革の推進

会議資料等の印刷業務や教材教具の準備・片付けなど、教員の事務的業務を補助する教員業務支援員を各小中学校に配置することにより、教員の業務負担の軽減を図るとともに、児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し、学校教育活動の充実を図った。

また、中学校においては、引き続き、専門的な知識・技能を有する部活動指導員を 14 人配置することにより、生徒にとっては専門的な指導による技術向上と、経験のない競技の指導による教職員の心理的負担の軽減に努めた。

学校安全の推進

老朽化が進みつつある各校・園において、計画的な改修により、児童生徒の安全・安心を確保した。

令和6年度に平生中学校に、肢体不自由生徒が入学することに合わせて、一部施設のバリアフリー化を進めた。

新たに学校施設管理人を1人配置することにより、各校の環境整備やきめ細かな施設の予防保全に努めた。

学校給食の事務委託

平生小学校・平生中学校の給食施設の老朽化が顕著であり、早期に「安全で安心な給食を安定的に提供できる体制を構築する」ことが必要なため、事態改善に向けた各種検討を重ね、田布施町学校給食センターの共同利用により所期の目的を達成できる見通しとなり、令和7年9月から平生小学校・平生中学校の学校給食事務を田布施町に委託することで合意した。

人権教育の推進

一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会づくりを推進するため、平生町人権学習講座を開催し、国や県の人権関係施策の説明や、様々な人権課題の講演会を実施することで、地域住民の人権意識の高揚を図った。

広報ひらおにおいて、人権コラム「つながり めくもり」を隔月掲載し、啓発活動に努めている。

地域で支える子育て環境づくりの推進

地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、幼稚園を含む学校と地域の連携・協働がスムーズになり、地域住民による学校支援ボランティア活動が幅広く行われた。

学校と家庭をつなぐ役割を担う「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援は、学校だけでなく、SSWやゆうなんこども家庭支援センターとも密に連携し、支援を必要とする児童生徒や保護者に対して、きめ細やかな支援を行う体制を整えている。

地域で子どもを育てるまちづくりの推進を目指し、青少年育成町民会議等との連携により、子どもたちが地域住民と交流できる行事や、登下校時の見守り活動・あいさつ運動に取り組んだ。

また、中学生・高校生が地域活動の運営サポートとして参加・貢献できる「中

高生ボランティア活動」は 3 年目となり、多くの中学生・高校生が地域の諸行事に参加することで、地域の活性化につながるとともに、自身の自己肯定感や自己有用感の高揚にもつながっている。年度後半は、一部の行事について、小学校高学年もボランティア活動への参加を可能とし、対象の幅を拡大した。

生涯学習と文化活動の推進

生涯学習の推進については、町民憲章の具現化・花いっぱい運動・町職員が講師となるまちづくり出前講座等を実施し、町民への学習機会の提供・啓発に努めた。花いっぱい運動については、県の「ゆめはな開花プロジェクト推進事業補助金」を活用し、参加花壇を紹介する花いっぱいカレンダーの制作に取り組み、町内全世帯に配布した。

生涯学習活動の拠点となる地域交流センターを所管する地域振興課と連携し、地域交流センター主催講座等の情報共有に努めた。

教育委員会主催の生涯学習講座は、夏休みに、小学生と保護者を対象とした天体観測会を開催した。また、秋の文化行事の中で、文化協会と連携し、水墨画・アーティシシャルフラワー・羊毛フェルトの 3 講座を企画し、事前申込みなく参加できる新しい形の講座運営に取り組んだ。

芸術文化活動においては、町の芸術文化活動の推進を担う、町文化協会・町音楽協会の活動を事務局として支援した。生涯学習活動の成果を披露する秋の文化行事では、関係団体の会長レベルで構成する実行委員会を立ち上げ、情報共有を図りながら運営を進めた。

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興

生涯スポーツの推進については、ウォーキング大会、ファミリースポーツ・レクリエーション大会を実施した。駅伝競走大会は周回コースへ変更し、4 年ぶりに開催することができた。また、我がまちスポーツに位置付けている「サッカー」による地域の活性化を図るため、レノファ山口 F C の選手 2 人を迎えて、「サッカー教室」を開催した。

令和 6 年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域部活動検討委員会及び検討委員会の部会（組織づくり、種目別）を開催し、協議を進めている。3 月には、「平生町新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を策定した。また、中学校の一日入学のタイミングで、町の取組状況を知らせるリーフレットを配布し、中学生の保護者への周知を行った。

読書活動の推進

3年目を迎えた「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの読書活動を推進するため、引き続きブックスタート・親子ふれあい絵本事業や移動図書館、学校等への児童書の配達等を実施した。

地域に親しまれる図書館を目指して「ひらお図書館まつり」を4年ぶりに開催した。

社会教育施設や文化財を活用した社会教育の充実

文化財関係では、県の「ゆめはな開花プロジェクト推進事業補助金」を活用し、佐賀の夫婦松へのガードパイプ設置、堀川公園内の古墳レプリカのチェーン取替、町内文化財を紹介する文化財マップの作成に取り組んだ。

また、5年ぶりに歴史講座を開催し、町内遺跡について学習する機会を提供した。

社会教育施設の活用においては、歴史民俗資料館において特別展「絵画展」を開催し、芸術文化の振興に努めた。

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

基本目標		02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	担当部署	学校教育課
施策		02-09	知・徳・体の調和のとれた子どもの「生きる力」の育成	総合評価	B

1 目指す姿

高い志と広い視野を持って、可能性に挑戦する子どもが育成されるまちを目指す。
一人ひとりの願いや思いを志に高め、確かな学力を基盤とした広い視野を持って、希望を持ちつつ、未知なるものへ進んで挑戦する態度や困難を乗り越える態度、新しいものを取り入れようとする態度を身に付けた子どもを育てる。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	・学力向上面については、小学校は、国語・算数とも全国平均並みであった。中学校は、数学・英語が全国平均並み、国語はやや上回った。 ・自己肯定感に関する調査では、小学校は肯定的な回答率が低下し、中学校は高まった。 ・体力向上面では、小学生が前年度比で合計点が高く、中学生が合計点が低い傾向がみられた。
課題	・学力面では「選択式」「短答式」に比べて「記述式」で回答する問題ができていない。自分の思いや考えを言語化し、根拠をもって伝えたり、書いたりするアウトプットの力の向上に力を入れていく必要がある。 ・教員組織として若手教員が多いことから、授業力や生徒指導対応、保護者対応の力を高めることが課題である。 ・体力向上については、小学生の段階から家庭や地域とも連携しながら運動に慣れ親しむ習慣づくりをしていく必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	全国学力・学習状況調査の平均正答率	%	目標	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	
			実績	小6 国:全国平均をやや上回る 算:県平均を上回る 中3 国:全国平均並み 数学:県平均並み	小6 国、算ともに全国平均を下回る。 小6 理科全国平均をやや上回る。 中3 国:全国平均並み 中3 数学・理科全国平均を下回る。	小6 国・算全国平均並み 中3 数・英全国平均並み 中3 国 全国平均をやや上回る			-

	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	%	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	-
			実績	小6 60.2% (↗) 中3 82.9% (↗)	小6 73.6% (↗) 中3 62.0% (↘)	小6 64.5% (↘) 中3 66.1% (↗)	※ (↗) : 前年度実績との比較		
	全国体力・運動能力等調査における体力合計点	点	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	
			実績	小5男 : 51.1点 (↗) 小5女 : 54.6点 (↗) 中2男 : 44.3点 (↘) 中2女 : 49.6点 (↘)	小5男 : 48.6点 (↘) 小5女 : 54.1点 (↘) 中2男 : 45.4点 (↗) 中2女 : 51.4点 (↗)	小5男 : 55.3点 (↗) 小5女 : 58.7点 (↗) 中2男 : 40.4点 (↘) 中2女 : 48.0点 (↘)	※ (↗) : 前年度実績との比較		

4 施策の方向性

- ・アウトプットの力の向上に力を入れる。
- ・教員の授業力、生徒指導対応、保護者対応の力を高める
- ・家庭や地域とも連携しながら運動に慣れ親しむ習慣作りを進める

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	オンライン英会話	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	学び支援事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	体力向上プログラム	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員 意見	・知・徳・体の調和のとれた教育がより推進されるためにも、幼保小中を見通した教育行政を展開してほしい。 ・アウトプット中心の事業や主体的に学ぶといった方針は素晴らしいし、方針に沿って、日々精進をされていることと思う。 ・学びのプライドについて、教員が意識を持って取り組んでほしい。（意識向上に努めてほしい） ・オンライン英会話について、生徒たちが英語に関心を持ち、日々の授業が楽しくなれば、学習意欲も向上すると思うし、そうなることを期待したい。 ・学び支援事業について、英検3級以上50%以上を目指すということで、グローバルな視点に活躍する子どもの力に対する行政からの支援ということで非常によく支えてもらっていると思う、これからも継続してほしいし、英検を受ける生徒も増えてほしい。 ・体力向上プログラムについて、事業内容が昨年と変わっていない。 教員も子どもも或いは保護者にも意識するように啓発に努めて欲しい。 施設について、利用しやすくなれば足を運ぶ機会が増え、施設を使っの運動が増えてくと思う。 ・全体として、それぞれの現状について課題を挙げられ、具体的な方策も出され、しっかりと評価していると思う。
------	---	------------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	学校教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価	B
施策	02-10	子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり			

1 目指す姿

ICTを生かした一人ひとりの個別最適化された学びや創造性を育む学びを実現するとともに、誰もが相互に支え合い、子どもたちが多様なあり方を相互に認め合える共生社会の形成に向けられたインクルーシブ教育システムの構築を目指す。また、常に子どもたちの前でエネルギーにいられる教師であるために、教員の働き方改革を進め、新しい学習指導要領に示す「質の高い授業の提供」に結びつける。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	- ICT支援員による教職員へICT活用のサポートを実施 - 教員業務支援員を各校に配置し、教員が本来担うべき業務に専念できるよう支援を実施
課題	教員1人あたりの1カ月時間外業務時間が小学校、中学校共に目標時間に達成していないが、特に中学校においては、時間外業務時間の削減を進めていく必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合	%	目標	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	-
			実績	小：91.4 中：86.8	小：100.0 中：99.0	小：100.0 中：92.6			
	教員1人あたり1カ月時間外業務時間	時間	目標	小：41.6 中：69.3	小：39.0 中：65.5	小：36.3 中：61.6	小：33.7 中：57.8	小：31.0 中：53.9	-
			実績	小：41.4 中：69.3	小：40.8 中：59.8	小：38.3 中：65.2			

4 施策の方向性

働き方改革を進めるため、外部人材の更なる活用を行う。

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	ICT支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	教員業務支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	A	事業拡大・費用拡大
	部活動指導員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	- ICT支援員配置事業について、各現場でかなり機能しているようで、現場の教員から助かっていると聞いており、頼りにされていることがよくわかる。 - 教員業務支援員配置事業について、教職員の事務的な業務を補助することにより、児童生徒との関わりの時間が少しでも増えてくれればと思う。 - 教育環境の整備については非常に手厚いと思う、この厚い支援を続けていってほしいし、それを活かすような教育の質的な向上を期待している。 - 色々な取組（人的支援）を積極的に進められていることを高く評価したい。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	社会教育課
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	総合評価	B
施策	02-11	人権教育の推進		

1 目指す姿

「山口県人権推進指針」および「山口県人権教育推進資料」を活用する取組みにより、住民一人ひとりの人権が尊重された誰もが笑顔で住むことができる心豊かなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	・平生町人権教育推進協議会において、学校・家庭・地域社会における、さまざまな人権教育について協議を行い、取組みを進めている。 ・地域における学習機会の充実を図ることを目的に開催する人権学習講座には、町内学校教職員の参加も多い。 ・町広報紙「広報ひらお」で、人権コラム『つながりぬくもり』により、啓発に努めている。
課題	・平生町人権学習講座は毎年受講される人も多いが、小中学校保護者世代や、町内企業の従業員に周知をする等、引き続き、幅広い世代により多く受講してもらえるような取組みが必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
人権学習講座参加者数 (3日間の合計)	人	目標	125	140	150	160	170	94.7%
		実績	125	130	142			
「広報ひらお」への「人権コラム『つながりぬくもり』」の掲載回数	回	目標	6	6	6	6	6	100.0%
		実績	6	6	6			

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	人権学習講座については、より多くの町内事業所の方・小中学校保護者世代に参加していただけるよう周知を強化する。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
平生町人権学習講座	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	・人権コラムを今後どう展開するか難しいと思うが、平生町ならではの取組みとして評価する。 ・人権学習講座の内容等を創意工夫しながら今まで続けていることは評価する。 ・令和5年度は受講後に具体的な成果につながる講座もあった。(中学校の文化祭でフードポスト設置等) ・保護者世代や働く人が講座に参加しやすい日時の設定等を工夫して欲しい。
------	---	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】			総合評価
施策	02-12	地域で支える子育て環境づくりの推進			
					A

1 目指す姿

学校・家庭・地域が連携した家庭教育、子育てサポートを充実させ、地域で子育てを支えるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	・地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、地域と学校の連携がスムーズになり、特色ある地域協育ネット事業が幅広く展開されている。 ・家庭教育支援チームによるきめ細やかな支援が展開されている。 ・青少年育成町民会議や町子ども会等の社会教育団体との連携により、さまざまな体験機会を提供できている。 ・地域協育ネットの事業の中に立ち上げた「中高生ボランティア活動」では、町内及び近隣市町の中高生が、積極的に地域の行事にボランティアとして参加してくれている。年度途中からは、内容により対象者を小学校高学年までに拡大した。 ・学校支援ボランティアには、高齢者を含め幅広い年代の方から登録があり、環境整備や登下校見守り、学校行事などに多くの方の協力を得ている。
課題	・活動を継続していくにあたり、現時点では活動が維持できているものについても、新たな人材確保等、長期的視野で体制を整える必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	学校支援ボランティアなどにより学校を訪れる地域の方の人数	人	目標	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700	107.8%
			実績	6,301	6,665	7,004			
	地域協育ネットコーディネーター養成講座修了者数	人	目標	6	7	7	8	8	114.3%
			実績	6	7	8			

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	子どもたちのために活動をしてくださる地域のボランティアに加え、児童・生徒の保護者世代にも声かけをする。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	地域協育ネット	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・中高生ボランティア活動においては、地域の行事に積極的に取り組んでもらっている。また、自分たちの意思で決定し実行していく取組みがされていることは素晴らしいと思う。 ・学校支援ボランティアの活躍が素晴らしいので、活動されている方の取組みを周知して欲しい。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価	A
施策	02-13	生涯学習と文化活動の推進			

1 目指す姿

情報化社会に対応できるようなオンラインを通じた学習など、住民の誰もが、生涯を通して健康で生きがいのある人生を送ることができる生涯学習社会の実現に向けて、生涯にわたって学べる環境や体制を整え、「生涯学習のまちづくり」を進める。また、芸術文化活動による潤いに満ちた心豊かな生活の実現を目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	・花いっぱい運動は、町内小学生も総合学習の時間に取り組みを学習し、花壇管理団体の方々との苗移植にも参加する等、子どもたちとともに活動することができた。また、県補助事業を活用し、運動を紹介する「花いっぱいカレンダー」を制作した。 ・芸術文化活動については、秋の文化行事実行委員会を立ち上げ、関係団体による連携のもと、学習活動を発信し、町民への芸術文化鑑賞機会を提供した。
課題	・生涯学習活動の充実に向けて、活動の拠点となる地域交流センターとの情報共有や事業連携により、引き続き人材発掘や人材育成に目を向けていく必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	文化協会への加入団体数	団体	目標	10	10	10	11	11	100.0%
			実績	10	10	10			
	音楽協会への加入団体数	団体	目標	11	11	12	12	13	91.7%
			実績	11	11	11			
	花いっぱい運動コンクール参加団体・個人数	団体・人	目標	24	25	25	25	25	104.0%
			実績	25	26	26			

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	文化展や音楽祭の運営について、運営主体となる団体に未加入の団体・個人単位での参加も検討することにより、新たな人材発掘・人材確保に努める。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	芸術文化推進事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・コロナ禍で活動中止や高齢化も進み、会を閉じられた団体がある。各地域交流センターの活動団体は、各コミュニティ協議会に協力してもらい、文化行事への参加が望ましいと考えている。 ・秋の文化行事等に、個人で参加しやすいような環境設定と周知が必要である。 ・町の音楽祭で子どもたちと一般との交流ができればいいと思う。
------	---	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価	A
施策	02-14	生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興			

1 目指す姿

住民誰もが、ライフステージを通じて、それぞれの体力や関心、適性などに応じて、スポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境が整い、健康および体力の保持促進、障がい者スポーツが盛んなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	- 令和5年度以降の中学校部活動の段階的な地域移行に向けて、地域部活動検討委員会を3回、地域部活動検討委員会部会を12回開催し、新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針を策定した。 - ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、半日開催とした。
課題	- 今後、段階的に中学校部活動を地域に移行するために、地域クラブ活動の主体となる運営団体・実施主体の体制を整える必要がある。 - ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、多くの参加者を得ることができるよう、開催方法や内容の検討が必要である。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	休日の地域部活動の実施	回	目標	検討する	検討する	検討する	準備する	実施する	-
			実績	検討した (3)	検討した (8)	検討した (15)			
	ファミリースポーツ・レクリエーション大会参加人数	人	目標	400	400	420	440	460	83.3%
			実績	中止	400	350			

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	今後、段階的に中学校部活動を地域に移行するために、人材確保をするとともに運営団体・実施主体の体制を整える。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	休日の地域部活動の実施	A	業務の内容は適切である	E	事業維持・費用縮小
	ファミリースポーツ・レクリエーション大会	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	- ファミリースポーツ・レクリエーション大会にモルックなどのニュースポーツや障がい者スポーツを取り入れる等の工夫があるとよい。 - 町民が一堂に会することはあまりないので、幼児から高齢者まで幅広い世代が集まれるように、呼びかけ等にも工夫して欲しい。 - 若い職員に、これからの大会はどうあるべきか意見を広く求めることも大事であると思う。
------	----------	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価	A
施策	02-15	読書活動の推進			

1 目指す姿

図書館が、生涯学習の拠点として気軽に楽しく学ぶことができる場となるとともに、多くの本と出会う環境の中で、本を通じて住民一人ひとりが心豊かな生活を送れるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	・読書は、豊かな情操を育み、人格形成をしていく上で大きな役割を担うことから、蔵書の充実を図るとともに、ブックスタート・親子ふれあい絵本事業や移動図書館事業等により、乳幼児の時期から本に触れる環境の提供、長期休業中の子どもへの読書機会の提供に努めている。 ・図書館まつりを開催し、読書に関心を持ってもらうきっかけづくりの機会を提供している。 ・「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、広報や図書館ホームページ（QRコードを取り入れる等）を活用した情報発信に取り組んでいる。
課題	

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	町立図書館年間貸出者数	人	目標	11,000	12,000	13,000	14,000	14,600	100.7%
			実績	11,107	13,791	13,092			
	町立図書館年間貸出冊数	冊	目標	58,000	59,000	60,000	61,000	62,400	114.0%
			実績	58,362	70,550	68,420			

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	図書館蔵書充実事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・児童書が充実してるのは、素晴らしいと思う。町外からもよく来館されている。蔵書についても、いろいろな人から聞くがとても充実しており素晴らしい。 ・開館時間の延長があればよいと思う。
------	----------	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和5 年度)

			担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価	A
施策	02-16	社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実			

1 目指す姿

自分たちの住む地域の歴史や文化を伝えるため、文化財を身近に感じてもらうとともに、そのものの魅力を高める。あわせて、社会教育施設の機能が充実したまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和6年 6月)

現状	・地元遺跡に関する歴史講座を開催し、文化財に対する意識の向上に努めた。 ・歴史民俗資料館において特別展「絵画展」を開催し、芸術文化に触れる機会を提供した。 ・町内文化財をまとめた「文化財マップ」の制作に取組み、町の貴重な歴史の発信に努めた。
課題	・専門性を有する分野であることから、人材確保が必要である。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	文化財の指定数	件	目標	16	16	16	16	16	106.3%
			実績	16	17	17			
	歴史講座、特別展示の開催	回	目標	1	2	2	2	3	100.0%
			実績	1	0	2			

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	町の歴史・文化財を後世に伝承するために、町郷土史研究会と連携をする等、人材確保に努める。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
	文化財整備・活用事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・平生で育った子どもたちが残してくれた「平生町郷土かるた」等は、ずっと引き継いで欲しいと思う。 ・令和5年度は、特別展・歴史講座を開催されている。終戦から80年を迎える令和7年には、阿多田交流館・歴史民俗資料館で平生ならではの特別展を開催して欲しい。
------	---	--------	--